

(八) 湯屋谷川 (ゆやだにかわ)

東林木町の「湯屋谷」から流れる川が「湯屋谷川」です。

「湯屋谷川」の源流は、北山の上方「高清水」から流れ、昔は大谷と呼ばれていました。

「湯屋谷川」は、昔から雨がかさむと洪水となり周辺の農耕地に害をあたえ人々はその川を「嫌川(いやがわ)」と呼んでいたようです。

出雲国風土記から江戸時代の初期頃にかけては「湯屋谷川」は神戸郡へ向かって流れていましたが、慶安元年(一六四八)に大山抜大洪水が発生し、林木村では大寺が流出するなど、大被害を受けており、その頃から「湯屋谷川」では洪水を繰り返して元禄九年(一六九六)頃より、今の流域東に向かって流れを変えたと言われています。(湯屋谷川ノ川違イ)

「湯屋谷」の呼称の初見は、「雲陽誌」の東林木の項に見られます。

「岩屋薬師、古老伝え云、昔此岩屋の前に温泉あり、故に湯薬師と云う。此の谷を湯屋谷といへり」

この文献に沿って検証してみると、湯屋谷林道の大飛跡(おおとびと)の橋を渡った東上に岩屋の薬師さんが祀っており、その下の谷川隅に湯壺らしい場所が残っています。

面白い話を紹介します。

古老の話では、昔北山の湯屋谷の奥で熱い湯が湧きだす温泉があり、北山から赤毛の牛が毎日出て来てその温泉の湯を呑んでいたそうです。

ある年の大山崩れで赤毛の牛が土に埋もれてしまつて、湯屋谷川の温泉が出なくなつてしまいました。その頃、大原の大東の奥で赤毛の牛の尻尾が出てきて、そこから熱い温泉が出るようになったそうです。

その温泉が牛尾(海潮)と言われるようになりましたが、元は湯屋谷から湧き出していた温泉だったという話はおとぎ話のようです。

古老の話によると、  
明治の中頃、東林木村の  
数人の出資により、  
この湯壺から温泉を引き  
湯治宿を経営されていた  
そうです

すが長くは続かなかつた  
ようです。

